



# 福音新聞

2015年9月  
藤沢羽鳥  
福音教会

## 夏の行事

### 「花火と賛美の集い」



教会では二〇一五年の夏も様々な行事をさせていただきました。七月に「花火と賛美の集い」が行われ、多くの子どもたちと神様をほめたたえ、花火やゲームをして楽しい時を過ごす事ができました。その会の中で、「平和川のように」という賛美をみんなで踊りながら歌いました。この賛美の歌詞は「平和川のように♪喜び泉のように♪愛海のように心に♪ハレルヤ♪平和川のように♪喜び泉のように♪愛海のように心に♪」です。

実際、人の心の中に平和が流れ、喜びが湧きあがり、愛が広がったら、様々な争いも戦争もなくなります。しかし現実には世界でも戦争が続く、国内でも殺人や様々な悪が広がっています。

そこで、聖書の登場です。聖書の中に記されているイエス・キリストが神様と私達人間との平和を築いて下さり、神様の恵みや守りや助けや祝福を受けられるようにして下さいました。さらにその恵みや守りや助けや祝福によって喜びと感謝のある日々を歩めるように、

その心を整えて下さいました。そして、愛される事、愛する事の中に生きられるように導いて下さいました。

もちろん、日々の生活の中でいろいろな出来事により、心が騒いだり、イライラしたり、落ち込んだり、悲しんだりすることはあります。

それでも、確かな存在である神様により、平和と喜びと愛が与えられると信じる時、前に進む事ができます。皆様の上に神様の平和と喜びと愛が豊かに注がれるよう祈ります。



平和川のように  
喜び泉のように  
愛海のように心に  
ハレルヤ♪



教会の前で  
みんなで花火！

### 「教会サマーキャンプ」

「花火と賛美の集い」に続いて、夏の教会のメインイベントである「教会サマーキャンプ」が八月に御殿場のYMCA東山荘において二泊三日で行われました。一番若い人が一歳、一番年齢の高い人が八十歳、幼稚園児や小学生、中学生、大学生、おっさん、おばちゃん、爺さん、婆さん、いろいろな年代の人達と一緒に食べて、一緒に遊んで一緒に笑い、一緒に祈り、一緒に賛美し、一緒に礼拝しました。楽しい素晴らしい三日間でした。

その三日間の中で、運動会や水遊び、スイカ割りやナイトウォークなど様々な事をしましたが、何と言っても四回の礼拝が素晴らしかったです。心が熱くなる賛美をして、聖書からの素晴らしいメッセージに耳を傾けました。そして、四回のメッセージの中で「主の祈り」について詳しく語られました。この「主の祈り」はイエス様が弟子たちに祈りの手本として教えられたもので、世界中の教会で祈られているものです。ではその内容を詳しく見ていきます。

まずは「天にまします我らの父よ、願わくは御名をあげさせたまえ」です。

つづき

聖書の中には神様の御名(みな)がいくつも記されていて、その御名を信じてあがめていく時、御名による恵みを受けることができます。例えば、「平安」という御名です。平安を得られます。また「癒し主」という御名です。癒されます。また「清め主」という御名です。清められ正しい歩みができます。

次に「御国を来らせたまえ」です。これは神様による支配と権威と秩序と平和が広がりますようにという祈りです。神様に支配され、神様の権威を認めるところには安心があります。また、神様の秩序と平和によりこれまた安心があります。

次に「御心が天になるごとく地にもなさせたまえ」です。これは神様がなされる素晴らしい事がこの地の上に豊かに行われますようにという祈りです。神様の恵みを受け取る大切な祈りです。ちなみに私は毎日祈っています。

次に「日用の糧を今日も与えたまえ」です。これは今日の食べ物を与えて下さいとの祈りですが、私達が日々の生活の中で生きるのに必要なのは食べ物だけではありません。

現代においては特にその心に必要なものがあるのではないのでしょうか。

神様は私達が幸せに生きるのに必要な愛や喜びや平和をその心を与えて下さいます。



次に「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ」です。この言葉をコテコテ大阪弁訳の聖書

では「わてらの至らんところは勘弁してちょうだい、そんなかり、わてらも他人はんの至らんところは許しますよつて」と訳しています。人は誰でも「至らんところ」があります。それによって迷惑や心配をかけた時、トラブルを広げてしまいます。それら一つ一つを裁いていたら、人間関係がボロボロになってしまいます。だから神様は互いにゆるし合って平和の広がる道を歩むように教えているのです。

次は「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」です。世の中には様々な悪があります。そしてその悪によつて結局は不幸が広がります。それでも人は自分の欲と得と楽の為に悪の道に進んでしまふ事があります。だから、様々な悪から救い出されるように祈る事は大切です。

そして最後は「国と力と栄とは限りなくなんじのものなればなりアーメン」

です。何だか、難しい

早口言葉みたいですが、

これは、全ては神様の所有であり、神様に栄光があるようにとの祈りです。



人間は高ぶりやすい存在です。高い地位や名誉や大金を手にとると謙遜と感謝を忘れてしまいます。だから、自分より強く大きく素晴らしい存在である神様を信じ認め、畏れていく必要があります。これらによりその与えられている恵みから転落しないで生きることが出来ます。

この「主の祈り」を毎日祈っていきましよう。これによつて、神様との関係が整えられ、豊かに神様の恵みを受け、人との関係に平和が広がり、感謝のある幸いな日々を送る事が出来ます。ハレルヤ！

